

郷土研究 伊丹公論

復刊
第28号
通巻 47号

年 3 回発行

発行所
伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-7-14
☎072・784・8170
編集
伊丹公論編集委員会

小西酒造2銘柄がIWC金メダル

「清酒発祥の地・伊丹」の面目躍如

今年度の日本遺産認定を機に「清酒発祥の地・伊丹」が改めてクローズアップされているが、本市の代表的な清酒メーカー、小西酒造株式会社（東有岡2、小西新右衛門社長）が醸造した2銘柄が、昨秋のIWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）でSAKE部門最高位の金メダルに輝いた。コロナ禍を吹き飛ばすような朗報に社員や関係者が沸き立っている。

2銘柄同時金メダルは初

IWCは毎年、英国ロンドン

で開かれ、世界で最も大きな影響力をもつワインのコンテストとされる。平成19年（2007）



IWC金メダルに輝いた2銘柄を手にする小西・国際統括部長(右)と石田・技術部長(左)＝小西酒造本社で



仕込み作業を行う製造担当者

年に「SAKE」部門が誕生、ゴールド、シルバー、ブロンズ、大会推奨酒の4賞が選ばれる。2020年度は日本酒部門で千401銘柄がエントリーしていた。小西酒造がゴールド（金メダル）を獲得した銘柄は、大吟醸部門の「超特撰白雪大吟醸富士山蔵」と古酒部門の「超特撰白雪江戸元禄の酒（復刻酒）原酒」。前者は、甘味と酸味の調和が取れ、フルーティーな香りと

すっきりとした後味が楽しめる高級酒。後者は、小西家に伝わる秘伝書「酒永代覚帖」をもとに、江戸元禄時代の手法で醸造した琥珀色の濃醇甘口の酒だ。

同社は平成22年からIWCにエントリーし、金を含むメダル獲得の実績はあるが、2銘柄同時の獲得は初めて。創業47年という節目の年に、このような評価をいただき、とてもうれしい」と石田禎晴・技術部長は話す。

清酒の輸出は右肩上がり

日本酒造組合中央会によると、令和2年（2020）の清酒

輸出総額は241億円で、過去最高となった。11年連続で記録を更新し、右肩上がりが続いている。同社でも輸出は、売上全体に影響を与えるまでに成長し、好調だ。小西陽子・国際統括部長は「ここ数年、欧米の品評会でSAKE部門が増え、受け入れられる地域も種類も広がってきた。特に海外では、付加価値の高いものが愛飲されていると感じる」と話す。ヨーロッパの中でも、西欧から東欧へ徐々にその魅力が広がっており、最近では北欧のエストニアからも新たな問い合わせが入るなど、まだまだ需要が高まっていく勢いだ。

日本遺産認定で気持ちも新たな

本市は、濁り酒から澄み酒の醸造法を開発した「清酒発祥の地」を標榜している。昨年6月には、「伊丹諸白」と「灘の生一本」と下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と

灘五郷」が日本遺産に認定された。認定は、社員にとって伊丹の酒造りの歴史を再認識し、伝統や先人の積み重ねに感謝するきっかけになったという。小西社長からは「これからも自信をもって邁進していこう」という激励があり、社員は誇りを胸に、清酒の魅力発信に取り組んでいる。

創業500年へ向け挑戦中

同社は、天文19年（1550）創業という老舗。小西社長は、令和3年の年頭あいさつの中で「令和の時代から創業500年に向かって新たなチャレンジをスタートしていく覚悟だ」と語っている。

今年2月には、「大吟醸氷温熟成（300ミット）」「純米酒氷温熟成（同）」という、ペットボトル詰の商品を発売した。

万全のコロナ対策で地域支える

伊丹産業の新社屋竣工予定

本市にあるガス・石油等販売大手、伊丹産業株式会社（中央

5、北嶋一郎社長）の新社屋が今春の竣工を予定している。写真

真。新型コロナ感染症には、ハード・ソフト両面で徹底的な対策が取られる。

新社屋は、特徴的な三角屋根を持つ本館が鉄筋コンクリート地下1階地上5階建て延べ2千361平方メートル、隣接する別館が鉄筋コンクリート一部鉄骨地下1階地上4階建て延べ3千641平方メートルとなっている。

昭和23年（1948）



創業の同社はLPガス・都市ガスの製造販売、石油製品・米穀・通信機器販売など多彩な事業を展開、年間売上は約千100億円、従業員数は約千500人を超える（令和元年12月31日時点）。もし社員に集団感染でも発生し事業が滞る事態になれば、地域社会に大きな混乱を与えてしまうため、新社屋では徹底したコロナ対策が取られる。

まず玄関には非接触検温装置を設置。各フロアや会議室、食堂などには空気清浄機を取り付けた。全社員、来客にはICカードを配付し、社内を移動する時は必ず各所に設置されたカードリーダーにかざし、感染者が出た場合、感染者がいつどこで何をしていたのか追跡が可能。会議室には、テレビ会議システムを完備し、すでに積極的に利用している。

ソフト面では、全社員に毎日の検温と会社支給の不織布マスクの着用を義務化。昼食の時間を分散、同じ部署の社員同士は同席しない。

コロナ禍以前からの危機管理対策として同社は平成25年（2013）、本社のすぐ近くに防災センターを設け、災害物資の備蓄のほか、ディーゼル自家発電装置による隣接給油所への電力供給、太陽光やLPガスによる発電などの態勢を取っている。

総務部では「当社はガス、石油、米など市民生活を支えるサービスを提供している。コロナ対策に万全を期しながらサービスを継続し、地域社会の発展に貢献していきたい」と話している。

（細尾 哲也）

第8回 日本一短い自分史

「未来への恋文」

大賞に高岡市 麻谷さん

ことば蔵はこのほど、伊丹市制80年にちなみ「80」をテーマに募集していた「日本一短い自分史」の大賞に富山県高岡市の公務員、麻谷久美子さん(52)の「未来への恋文」を選んだ。



大賞を受賞した麻谷さん＝勤務先の図書館で

典・佛教大名誉教授、永吉雅夫・追手門学院大教授、中周子・大阪樟蔭女子大教授の3人。秀作入賞者は、岐阜県羽島市の池戸則子さん(59)、札幌市の小玉弘子さん(42)、大津市の中山光正さん(54)の3人。大賞作品の全文は以下のとおり。

◇ ◇

平成元年、大学二年生の夏のことである。地元のとある資産家の未亡人が他界された。広い広いお屋敷には山のような多くの書物が残され、未亡人のご遺族から地元の図書館に寄贈したい、との申し出があったという。当時、司書の資格に興味をもっていた私は大学の求人掲示板でそれを見つけ、早速とりかかる運びとなった。

作業場所は敷地内のガレージの中。夏の盛りのうだるような暑さの中でたった一人での作業が始まった。ボロボロで状態の悪いもの、ページの落丁など

確認し、仕分けして、ノートに一つ一つ書名を記していく。そんな日々の中で私は、あるものを見つけた。亡くなった未亡人は『婦人之友』の愛読者だったらしく、多くのバックナンバーが残されていた。その中の一冊に、一枚の便箋がはさまっていたのである。それは、まぎれもなく「恋文」だった。

文面から察するに、未亡人は両親の反対により、手紙の相手の男性とは結婚できず、さらにその男性は出征したまま生死もわからぬ、といった事情があるようだった。流れるように美しい文字の最後の言葉を、今でも鮮明に覚えている。「わたくしたち、八十歳になったら普通にお話しできますよね。」

彼女は信じていたのだ、いつか彼に会えることを。そして、あてのない手紙を書いて秘めた思いのよりどころとしていたのだろう。八十歳には、まだいく

らもある年で亡くなってしまったけれど。そして、あの夏の日から三十年以上が過ぎた。私自身、平成という時代を丸ごとのみこむほど年をとり、あの時には分からなかった人生の悔いというものも少しは分かるようになったと思う。私は今、二十歳の自分と八十歳の自分の中間地点にいる。あの未亡人のように純粹な一面を持ち続けられるだろうか。答えを知るために、あと三十年歩むとしよう。

◆ ◆

麻谷さんの話「恋文のエピソードはずっと胸に秘めて、私自身の『青春の忘れ物』のようになっっていました。それを記し、共感していただけたことで自分なりに心の整理がついたように思います。ありがとうございます。この世では結ばれなかった恋人たちに捧げます」

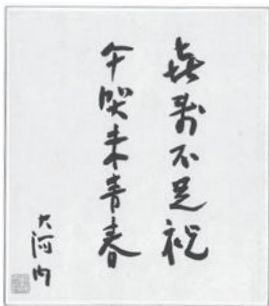
・・・・・・・・・・

ではなんと昭和50年(1975)、全国2番目に発足した。当初「高齢者福祉事業団」と呼ばれたこの組織は、「これから高齢者は生涯現役である」と訴えた大河内一男・東大長(当時)の発案で東京都江戸川区に生まれた。

その大河内氏に初めて会った伊丹の2代目理事



伊丹市シルバー人材センター



大河内氏の色紙

長、安保明子さんは「先生、足ありますか?息子(関西学院大学総合政策学部教授)は雲の上の人と言っています」と言うと、「足はちゃんといっています」と大笑いされた。ご本人は、ハローワークのベテラン相談員からの転身で、著書に「おんな理事長奮闘記」(ミネルヴァ書房)がある。

大河内先生の「喜寿不足祝傘賀未青春」の色紙が、同センター12階の会議室内に飾られ、会員の励みになっている。兵庫県内では、伊丹に続けと、姫路、尼崎、神戸と次々にシルバー人材センターが発足。安保さんは、全国シルバー人材センター副会長として、全国各地での設立に向け駆け回った。

(郷土史研究家 森本 啓二)

伊丹俳壇

最優秀賞

寒がりだ二月生まれの犬なのに

堺 紀彦(滋賀県高島市)

おかしくて笑ってしまう。でも、犬にとっては二月生まれに意味がないかも。月日とか四季は人間が作った文化だから。

優秀賞

庭の土動き始める二月かな

小田和子(明石市)

二月から更新されぬツイッター

芍薬(千葉市)

如月の鬼滅の刃豆を撒く

陸月くらげ(埼玉県新座市)

書き上げて二月半ばの青い空

嘯野アンドウ(伊丹市)

伊丹歌壇

最優秀賞

やさしさは想像力と

先生がきれいなことを教えてくれる

大野美波(埼玉県人間市)

「やさしさは」人の心を思いやる「想像力」だと教えてくれる。いい先生だなと思って読むのも素敵だけれど、「きれいなこと」は「きれいなこと」ともなる。日本語のマジックに気づいてドキッとする。

優秀賞

先生の唱える呪文ふわふわと黄昏に水平線のプルーフ

たなかのたんか(伊丹市)

「ありをりはべりいまそかり」教室に吟ずるような先生の声

陸月くらげ(埼玉県新座市)

介護士に過ぎないんだが婆ちゃんはせんせんと慕ってくれる

堺 紀彦(滋賀県高島市)

「給食をアリガトと言ってくれました」入園初日のCOCONOアプリ

渡辺啓子(神戸市西区)

先生の妻の『こころ』は読み解けず高等遊民に憧れた日も

知地一代(神戸市西区)

次回の兼題は、俳壇は「ポスト」、歌壇は「人形」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は4月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円を進呈。下のQRコードを利用すると、スマートフォンからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。



つながり生かし地域活性化

伊丹商店会シリーズ②IMMロード商店会



令和元年の大抽選会の様子

IMMロード商店会は平成11年(1999)6月、会員55社で発足し、今年21年目を迎えている。
IMMとは、伊丹のI、瑞穂町のM、瑞ヶ丘のMを並べたもの。今の会員数は撤退・廃業等のため少し減った

が、伊丹では名の知れた企業が多く、法華宗の古刹、妙宣寺も会員である。
会長の石橋安雄さん(85)は、三和自動車株式会社の代表取締役会長。商店会の発足時、同志7人を発起人と

し、会の名称、主事業、会則案などを決めた後に、会員を募集した。会費は年間1万円で発足以来変わっていない。
同商店会では、会員店の知名度を上げるために、主要新聞4紙へのちらし折込みなどを活用。また、発足10年目からは、毎

年大抽選会を開催し、地域を盛り上げている。昨年11月には、コロナ対策に役立つマスクや除菌シートなども景品に加えた。賞品は会員店が販売しているものを選び、厳しいコロナ禍においても会員店への還元を心がけている。
ここ5年は、地域4団体と歴史講演会を共催しており、地域の人々の交流にも一役買う。役員会は平均して月2回。親睦会が行わないが、石橋さんの広い人脈に支えられ、会員たちが良好な関係を保っている。
年齢を重ねてなおエネルギーシユな石橋さん。「さらなる業種の会員参加を募り、地域活性化に貢献したい」と張り切っている。

老舗探訪

レディースファッション
コクリコ

伊丹市中央 1-7-15
☎072-772-2710



な洋服が道行く女性のおしゃれ心を楽しませる。
昭和43年(1968)9月の創業以来、53年間、婦人服一筋を貫く。店主の村西理子さん(63)は写真左は、お客様への想いから商品選びにとことんこだわりの仕入れでは、必ず手に取って質感、肌触りや重さを確認する。
洋服を目にした瞬間、お客様の顔が思い浮かぶこともある。しかし、基本は店主自身が好きかどうか。自分が好きだからこそ自信をもっておすすめることができるのだという。「ほしいデザイン

着られるだろうか」と不安を覚えた。同じ思いを抱く人たちに、しっかりと選り抜いた商品を届けたかったのだという。
女性の生涯のおしゃれに寄り添うといっても、実際には一筋縄ではいかない。「様々な色の洋服にチャレンジして欲しいのですが、何年も着慣れていた洋服の色の歴史は、そう簡単には変えられない様なのです」。店主としては、ためらわずおしゃれを楽しんで欲しいと願っている。

の洋服が見つからない」「洋服の合わせ方がわからない」などといった相談にも快く対応してくれる。大きめサイズ(3L)も取り扱う。
ここまで徹底した商品選びには理由がある。ある時、この先、年を重ねても自分の好きな服を

店の中から表を通り過ぎるお客様に店主が声をかけた。相手が見えなくなるまで見送る姿は印象的だった。
洋服の裾直し・寸法直しにも対応(早ければ翌日仕上がり)、愛着服のリメイクも取り扱っている。2月末からは春物が並ぶ。(KUMI)

現代人物

風景

高齢者の文化・福祉の向上をめざす市立サンシティホール(中野西1)で、パイプオルガンの演奏会に約25年間携わって来た。

大阪市阿倍野区生まれ。10歳からピアノを習い始め、京都市立音楽短大(現京都市立芸大)

ピアノ科に入学。卒業後は大阪市内の短大でピアノ講師などをしていたが、パイプオルガンの音色に惹かれ、36歳のとき、大阪音楽大オルガン科に編入した。

大阪玉造教会(聖マリ

サンシティのパイプオルガン演奏に25年



オルガニスト

木谷和子さん(81)

木谷さんは、このパイプオルガンが大好きで「もともと多くの人の素晴らしを知ってほしい」と、他の楽器との合奏を取り入れたり、コンサートの際に配るなど広報にも積極的に取り組ん

「ピアノと違い、パイプオルガンは足鍵盤があり、さらにストップの操作によって様々な音色が得られる。サンシティホールは、ドーム型の高い天井が音を拾い集めていい残響となり、ヨーロッパの教会を思わせる。

ア大聖堂)のオルガニストを務めることになり、その後渡欧。ドイツでオルガン演奏の幸せな時間を過ごした。
帰国した木谷さんは夫となる人と出会い、45歳で結婚。それを機に伊丹市へ転居し、本市のパイプオルガン事業に携わり始めた。

そのかいあって、年に数回行われるコンサートには多くのファンが訪れた。市民が参加できるパイプオルガン体験教室に毎回参加するリピーターも現れた。
サンシティホールのオルガンは、姉妹都市ハッセルト市の仲介でベルギーの職人が組み立てたものだが、設置後30年近く経って老朽化が目立ち、今年度末で事業終了となる。木谷さんは「事業が終わることは残念。でもこのパイプオルガン事業に長年関わられて幸せでした。関係者には感謝しかない」と話している。今後は他施設で演奏を続け、この楽器の魅力を広めたい、となお意気盛んだ。
3月7日、木谷さんにとってサンシティホールでの最後の演奏となるプロムナードコンサートに参加予定だ。荘厳で美しい音色をぜひ聴きにきてもらいたい。(龍田起代子)

郷土

土産品紹介

濃厚でなめらか 風味豊かな味わい豆腐

国産大豆を使った評判の豆腐が桜台小学校南側の「のつくおん」で買える。製造は系列の「とうふう工房」が担っている。どちらも社会福祉法人ヘルプ協会が運営する障がい者就労施設だ。



原材料は、国産大豆「フクユタカ」を100%使用。濃厚でなめらかな味わいが特徴で、木綿・絹・充填と、食感の異なる3種類の豆腐を製造販売するほか、中野西の洋菓子店「お菓子のメモロ」の協力で、豆乳を使ったチーズケーキやブッセも販売。期間限定のプリンも人気だ。平成22年(2010)にスタートしたこの豆腐事業では、製造・在庫管理、売上集計など、施設利用者がそれぞれ得意な作業に取り組んできた。過去には豆腐製造に係わった人が一般就労に結び付いた実績もある。
今後もこの事業を続けていき

たいが、コロナ禍の下で非常に厳しい状況だと、のつくおん所長の三村元伸さんは話す。新たな販路を模索中で、予約注文を受けて、配達も検討しているそうだ。

一番のお勧めは木綿豆腐「の」300g(150円)。濃厚な味わいで人気が高い。他にも絹豆腐「の」300g(150円)や充填豆腐「まめころ」3個入り(160円)、「豆乳」500ml(300円、にがり付)などがある。お菓子では「チーズケーキ」(160円)、「ブッセ」(130円)もある。(全て税込)

伊丹市中野西3-23
☎072-777-3532
販売は火・金曜(月曜祝日の場合は水・金曜) 9時~17時半
(龍田起代子)

クリーンランドひろば開園 ボルダリングが人気！

伊丹空港に隣接する豊中市伊丹市クリーンランド内に昨年9月20日、多彩な遊具を取りそろえた「クリーンランドひろば」がオープンし、人気を呼んでいる。

豊中・伊丹両市のごみ処理を担う同ランドでは、平成28(2016)年度から新ごみ焼却施設が稼働開始。これに伴って旧ごみ焼却施設は解体され、その



跡地を利用して「クリーンランドひろば」が整備された。広さ約3千平方メートルの円形の芝生広場と遊歩道、駐車場などで構成。芝生広場内には高さ3メートル、全長15メートルのボルダリング施設2基が設置され、色とりどりの

どもから大人まで大人気だ。1周200メートルの遊歩道沿いには、足つぽマツサージ、上体ひねり、ストレッチベンチなどの健康遊具や、休憩スペースのあずまやなどがあり、幅広い年齢層に対応している。

芝生広場の周囲には、桜やモクレン、クスノキなど100本を超える中高木を植栽。それらにアベリア、サルビアなど色とりどりの草花が彩りを添える。

94台収容の駐車場には、高さ約20メートルあるヤシ科の樹木、フェニックス2本がシンボルツリーとしてそびえ立っている。

オープン以来、家族連れを中心ににぎわい、約1カ月後には予想より早く来場者1万人を突破した。

展望フロアも人気

同ランドには、別の人気スポットがある。新ごみ処理施設10階の展望フロアだ。伊丹空港の滑走路や伊丹・豊中・池田各市などの市街地が一望できる。

入場できるのは、毎月第3日曜日の午前10時～午後3時までの一般開放時(予約不要)。展望フロアがコースの一部に含まれている、ごみ処理施設の見学時にも入場できる(こちらは要予約)。いずれも入場無料。

問い合わせは豊中市伊丹市クリーンランド ☎06・6841・5395へ。

もうすぐ来る
春の使者



にぎやかな ツバメの定宿

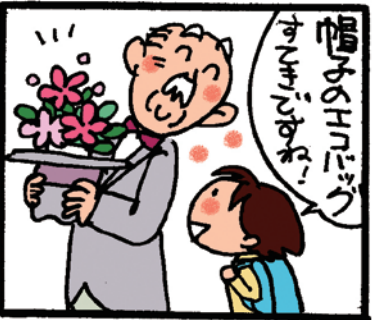
毎年3月になると、はるか5千キロのかたにある東南アジア諸国から伊丹にやって来る渡り鳥のツバメ。

繁殖期が近づくと、餌となる昆虫が豊富な日本へ命がけで渡ってくる。日本は南北に長いので地域によって初見日が違う。沖縄は2月、北海道は4月だ。異常な地球温暖化が憂慮される中、何とか今の環境は守りたい。

阪急伊丹駅の西約300メートル、県道五合橋線沿いにあるイスズハイツベル伊丹三番館(西台2丁目6)の軒先では、ツバメのお宿が15近く見られる。



タンジョー先生 はやいよ



林やよい

伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいまする」連載中。

▼家呑みの極意
悔しいが、昨年は本当に新型コロナウイルスに翻弄された1年だった。今年は、お店でゆっくり飲めるような状況になることを心から願いたい。さて、すっかり多くなった家呑みの一番の良さは、予算を気にせず「全集中」で飲めるところだろう。



好きな銘柄の酒を好きなだけ(笑) 飲める！普段なかなか飲めない(飲まない?) 大吟醸酒、純米大吟醸にも思い切って手が出せる。ただし、下手をすると調子に乗って、休肝日なしで大量の酒を摂取してしまうので、そこは要注意だ。

▼家呑みの難
さて、家呑みが何と言っても残念なのは寂しさ。その昔、「蒲田行進曲」という拙者が大好きな映画で「俺の背中の孤独の孤の字が見えねえのかよ！」という忘れられない台詞があった

好きな銘柄の酒を好きなだけ(笑) 飲める！普段なかなか飲めない(飲まない?) 大吟醸酒、純米大吟醸にも思い切って手が出せる。ただし、下手をすると調子に乗って、休肝日なしで大量の酒を摂取してしまうので、そこは要注意だ。

が、一人で飲む時は、まさに、それを実感することになる。あと、やっぱり買い物など面倒くさいところは否めない。このご時世、デリバリーなども充実してきたが、やっぱり誰かと「清酒で乾杯！」したいものだ。(ときわ喜多)



ふわふわ、ぷかぷか、かつぽかぽ。この落葉の風情は、俳句になると引越して来た時は「うふふ」と思ってたが、落ち葉掃きが大変だった。

家の前の道路には厚さ10センチの落葉。最初、手で集めてナイロンごみ袋に入れ、あとの落葉は箒で掃く。ようやく掃き終え横に集めて、さあごみを取って袋に入れようというときに赤いバイクがやっていく。宅急便のクルマもだ。「何これ、く〜」と腹が立つ。でも、仕方ないことだ。すぐに忘れ、せつせと夕方の落葉掃きを済ませる。

た花びらは道端に集まっているが、案外重たい。クスノキの落葉は真赤な色が混じりきれいで好きだが、これも大変多く落ちる。田舎には柿の木がたくさんあるが、みんな一緒の色をしていたように思う。今、家に植えている台柿という柿。去年は赤い落葉だったが、今年は黄色だった。地上に散り、敷いた落葉も鮮やかで艶がある。

とにかく紅葉も落葉もみんなきれいで好きだ。いろは紅葉をお皿に敷いて一品を乗せるのがかっこいい。でもこんな古いと言われそう。

この一年、コロナウイルスにも負けずに落葉を掃いている。両隣の人は私よりも一生懸命掃いておられる。今年は少ない方だが、風が吹いてくると大変な量になる。でも楽しく遊び心で掃くことにしている。

落葉降る大木の空仰ぐ朝 (平 きみえ)